

何故イスラエルは停戦を破ったのか

Palestine Chronicle、2025年3月20日、ロバート・インラケシュ著、脇浜義明訳 *脚注は訳注



Israeli PM Benjamin Netanyahu and top Hamas official Khalil al-Hayya. (Design: Palestine Chronicle)

本格的な地上侵攻が再び開始された場合、イスラエルはおそらく甚大な戦略的ミスをしたことになる。

3月18日、地元時間午前2時、ガザの人々は爆発の轟音で目が覚め、イスラエル指導部の停戦協定を破棄するという宣言を聞いた。それに対するハマスの武力反撃はなかった。ハマスはまだ外交に頼っていた。

注意すべきは、もともとイスラエルが停戦を順守していなかったことだ。1月19日に発効した第一日目以降、イスラエルの停戦違反行為は1000回を超える。ガザ攻撃を繰り返しただけでなく、多くの停戦義務の履行をせず、パレスチナ囚人の釈放を意図的に遅らせ、救援物資搬入の妨害し、ついにガザ住民への大規模攻撃を再開し、救援物資搬入を完全に止めた。

2023年10月9日、当時のイスラエル国防大臣ヨアブ・ガラントが「我々はガザを完全封鎖している・・・電気も食料も水もガスも、すべて止めた」と宣言し、それが、国際社会の圧力で戒められて止めるまで、数週間続いた。当時、ガラントの宣言は国際社会から注目を集め、違法な集団懲罰に抗議と反対の声が上がったが、今年の3月に現国防大臣がまったく同じ政策を発表したとき、世界のメディアのほとんどが注意を払わなかった。

イスラエルが飢えと破壊で苦しむ民衆への救援物資搬入を認めないことが何を意味しているのかが、メディアはあまり取り上げて報道しないが、これは極めて重要な戦略である。ハマスの、ネタニヤフの新提案、戦争終結を約束しない停戦で人質の全員返還を求める提案を認めさせる圧力である。「ハマスの圧力」とは、ガザの民衆への違法な集団懲罰であることは明らかである。

イスラエルの内部亀裂とネタニヤフの落とし穴

停戦合意の最初から、ネタニヤフは、戦争の完全終結の約束ではないことを何回も明らかにしていた。しかし、彼が署名した停戦合意は段階的に停戦の恒久化を約束するものであった。それで、彼は、三段階の約束の第二段階への移行をわざと遅らせ、戦争再開へと走ったのである。

首相が停戦合意を破る必要があった大きな理由は、自分の政治生命を守るためであった。停戦合意に署名したとき、極右の仲間イタマル・ベン・グヴィル安全保障大臣が抗議して連立内閣から脱退し、同じく極右のベザレル・スモトリッチ財務大臣も、合意の第二段階へ移行してそれを実行すれば、自分も辞任すると言って首相を脅迫した。第二段階では、戦争を完全に終結し、イスラエルがガザから撤退する約束であった。

ネタニヤフの政治権力は、過激な狂信的入植者と、宗教シオニストや極右らの支持者に依存していた。彼の政治生命にとって入植者勢力と極右宗教シオニスト勢力の両者が極めて重要であるが、この両者は政治的成熟と戦略的深さを欠いている。政治的成熟と知恵ある戦略がネタニヤフ派と軍を含む情報関係機関の間で生じている亀裂を穴埋めするものであるのに、それが無いのだ。

ネタニヤフは内部の反対者を次々と政府から外していった。ベニー・ガンツ、ガディ・アイゼンコット、ヨアブ・ガラントら閣僚級の人物から、軍報道官ダニエル・ハガリに至るまで、自分の意に沿わない者を排除した。最近ではネタニヤフ首相はイスラエルの諜報関係の任務を自分が直接担当する決心をし、シン・ベト長官ロネン・バールの解任を決めた。

シン・ベトー イスラエル国内諜報機関 — の長官を追い出そうとするのに、とうとう最高裁が法的にストップをかけた。しかし、ネタニヤフは最高裁の決定を無視して、バール解任決定を引っ込めなかった。このことも首相に反対する内部亀裂を促進している。

この国内危機を回避する手段として、ネタニヤフはガザ回廊への大規模空爆を開始した。5時間で400人の人命を奪った空爆である。そして彼は停戦協定の破棄を宣言した。ネタニヤフは、軍と諜報関係の幹部といっしょに、テルアビブの作戦本部の掩蔽壕に身を置いた。しかし、エイヤル・ザミール新参謀長が「誇りと刀作戦」と名付けた軍事行動の発表にも拘わらず、ハマも他の武装グループもまったく反撃しなかった。

イスラエルは、ガザで有効な軍事目標を見つけることができず、代わりに民間人を攻撃し、家族全員を虐殺することを選んだのだ。イスラエルの作戦の最も重要な点は、戦略的ビジョンがまったく欠如していたことである。また、まったくの偶然から、イスラエルの空爆は、パレスチナ・イスラム聖戦 (PIJ) のサラヤ・アル・クツズのスポークスマン、アブ・ハムザとその肉親を殺害することに成功したようだ。

パレスチナ・クロニクルの質問に、ハマス政治局幹部は匿名の条件で、自分はネタニヤフのガザ虐殺再開はハマスに戦争終結の約束を放棄する新たな停戦協定を受け入れさせようとする圧力だと思うと、語った。

米国の中東特使スティーヴン・ウィトコフは米国系イスラエル人質と死亡した人質の遺体の引き渡しと合意に第一段階と第二段階の間の臨時休戦を提案した。ハマスは、イスラエルが元の停戦合意の第二段階を実行することを保証するならば、それを受け入れてもよいと答えた。しかし、イスラエルはハマスの提案を拒否した。

ネタニヤフは戦争終結にまったく関心がなかった。彼は紛争の最終的解決を先延ばし、その可能性や機会を潰した。紛争解決より自分の権力陣営の輪を強くすることに集中した。ガザ攻撃は戦争を終わらせるプロセスを再び遅延させる必死の努力の表れであり、シン・ベト長官解任に反対する声や政府に抗議する声を黙らせる手段であった。

しかし、戦争再開で国民の注意をそらす策略はうまく機能せず、それどころか人質の家族は戦争再開は人質の命を犠牲にする行為だとして、政府へ停戦合意の実行を求める大衆運動を強めた。イスラエルの空爆で人質が1人死亡したというハマスの発表で、家族会の怒りはますます大きくなった。

トランプ大統領の指導力の脆弱さ

トランプはタフガイを装ってはいるが、イスラエルやシオニスト・ロビーの要求を押し返す点では、前任者バイデンより弱いことが明らかになった。バイデン政権は兵器援助を罰として一時停止したり、入植者暴力に制裁措置をするなどして、イスラエルの行き過ぎにブレーキをかけようとしたが、トランプは人道的支援物資のガザ搬入の妨害に関してさえ、イスラエルにやりすぎだと言うことができない。

これまで120億ドル相当の軍事援助をしてやったイスラエルに人道支援物資ぐらいガザ搬入を許可せよと言わないで、トランプ政権はイエメンへ集団懲罰としての事実上の戦争布告を行ったのである。イエメンのアンサーラー（フーシ派）は非常に明確に、国際法に基づいてガザ回廊に支援物資が搬入されれば船舶攻撃をしない、4日間待つと、宣言していた。

ネタニヤフは「7つの戦線」¹での「完全勝利」と領土拡張に執着している。この執着をトランプ政権は反対しない。しかし、どうやら、ネタニヤフがトランプ政権と組んで実行しているイスラエルにとって破局的な政策から、イスラエルを救い出そうとしているシオニスト部隊が出てきたようである。

現時点では、米政権がネタニヤフに直接的に立ち向かう意志がないために、米国・イスラエルのイラン攻撃は不可避であるように見える。中東全体の困難な状況を見ると、レバノン¹は事実上の最前線で、いつ火を噴くか分からず、シリアは不安定で混沌とした国家で、他の国々はいつどうなるか分からないので、その危機に備えて身構えている。

現在どの国も安全でなく、米国とイランの軍事衝突は必ず起きるように見えるが、それが全面戦争になるのか限定的戦争になるのかが分からない。

ハマスは、自分たちを取り巻く混沌とした状況を観察し、イスラエルのガザ・ジェノサイド戦争に反撃してすぐにロケットをイスラエルに撃ち込むことをしないで、もっと効果的な軍事攻勢の機会を待っているようである。ネタニヤフの方は、国内状況次第で、今の攻撃（ガザだけではない）をエスカレートさせるか、反対に鎮静化させるか、どちらかに進む。

いずれにせよ、全面的に大規模な地上侵攻を再びガザに行うようであれば、大きな戦略的誤謬を犯すことになるだろう。

¹ ハマス、フーシ派、ヒズボラ、シリア、西岸地区、イラクの人民動員軍、イラン。